

2023 年度理事会、学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会は、西尾善彦会長主宰のもとに 2023 年 5 月 11 日-13 日の 3 日間、城山ホテル鹿児島/かごしま県民交流センター/宝山ホールにおいて開催された。これに先立ち 5 月 10 日に定例理事会および学術評議員会が、定時社員総会は会期初日の 5 月 11 日に、いずれも城山ホテル鹿児島で開催された。

1. 2022 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第 65 回年次学術集会

会 長 小川 渉 (神戸大学)
会 期 2022 年 5 月 12 日 (木)~14 日 (土)
会 場 神戸ポートピアホテル, 神戸国際展示場, 神戸国際会議場 + WEB 開催
参加者 12,747 名

○会長講演

○理事長声明

○学会賞受賞講演

ハーグドーン賞：谷澤幸生「糖尿病における β 細胞不全の分子メカニズムに関する研究 From A Rare Disease to the Common Pathway」

リリー賞：酒井真志人「シグナル依存性の転写調節による糖尿病の肝病態の制御機構に関する研究」
土屋恭一郎「インスリン作用から紐解く糖尿病合併症の分子機構」

女性研究者賞：高橋倫子「生物物理学的手法を用いたインスリン開口放出機構の解明」

○特別講演 Domenico Accil「Advancing a cure for beta cell failure in diabetes」

○特別講演 Juleen R. Zierat「Signals and rhythms : Impact of energetic stressors on the control of metabolism in diabetes and obesity」

○会長講演 小川 渉「知の輝きと技の高みへ一人の集いがつくる明日の糖尿病学」

○会長特別企画 Susumu Seino—The Road Not Taken

○会長特別企画 インスリン分泌機構の分子生物学的研究：KATP チャネルの構造解明を中心に

○会長特別企画 ソマトスタチン受容体の発見から G 蛋白共役受容体ファミリー研究への展開

○会長特別企画 膵 β 細胞のシグナル伝達分子の生理的役割の探求：KATP チャネルと Epac2

○会長特別企画 清野進先生との 20 年に渡る研究生活

○シンポジウム

テクノロジーの進化による糖尿病診療の変革

他 32 題

○教育講演

糖尿病診療に際し考慮すべき「甲状腺」 他 28 題

○AASD/JDI モーニングセミナー

○EFSD との交換留学制度の報告会

○新専門医制度に関する講演

○第 5 回若手研究助成金成果報告会 11 題

○若手研究奨励賞(YIA : Young Investigator Award) 審査口演 15 題

○医療スタッフ優秀演題賞 審査口演 11 題

○一般演題 1,400 題 (口演 719 題, ポスター 681 題)

2. 第 57 回「糖尿病学の進歩」

世話人 馬場園哲也 (東京女子医科大学)

会 期 2023 年 2 月 17 日 (金)~18 日 (土)
オンデマンド配信：2023 年 2 月 20 日 (月)~3 月 31 日 (金)

会 場 東京国際フォーラム + WEB 開催

参加者 5,092 名

3. 地方会活動

1) 第 56 回日本糖尿病学会北海道地方会

会 期 2022 年 10 月 16 日 (日)

会 場 札幌プリンスホテル(国際館パミール) + WEB 開催

会 長 三好秀明 (北海道大学)

参加者 579 名

2) 第 60 回日本糖尿病学会東北地方会

会 期 2022 年 11 月 5 日 (土)

会 場 仙台国際センター + WEB 開催

会 長 片桐秀樹 (東北大学)

参加者 843 名

- 3) 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会
会 期 2023 年 1 月 28 日 (土)～29 日 (日)
会 場 ホテルメトロポリタン長野 + WEB
開催
会 長 駒津光久 (信州大学)
参加者 1,999 名
 - 4) 第 96 回日本糖尿病学会中部地方会
会 期 2022 年 11 月 19 日 (土)～20 日 (日)
会 場 富山国際会議場 + WEB 開催
会 長 戸邊一之 (富山大学)
参加者 1,626 名
 - 5) 第 59 回日本糖尿病学会近畿地方会
会 期 2022 年 11 月 5 日 (土)
会 場 神戸国際会議場, 神戸国際展示場 +
WEB 開催
会 長 小山英則 (兵庫医科大学)
参加者 1,857 名
 - 6) 第 60 回日本糖尿病学会中国・四国地方会
会 期 2022 年 11 月 11 日 (金)～12 日 (土)
会 場 広島国際会議場 + WEB 開催
会 長 米田真康 (広島大学)
参加者 1,030 名
 - 7) 第 60 回日本糖尿病学会九州地方会
会 期 2022 年 10 月 7 日 (金)～8 日 (土)
会 場 福岡国際会議場 + WEB 開催
会 長 小川佳宏 (九州大学)
参加者 1,907 名
4. 年次学術集会・糖尿病学の進歩・地方会の管理、
運営
本学会が主催する年次学術集会の運営を一元的に管
理し、財政負担を削減するために年次学術集会の運営
に関して日本コンベンションサービスと長期契約を行
い効率的な運用に努めている。
また、糖尿病学の進歩および各地方会においても準
備状況を適宜報告して頂き学会事務局でまとめている。
5. 支部長会活動
2023 年 2 月 16 日に東京 + WEB 開催にて第 11 回支
部長会が実施された。
6. 分科会活動
- 1) 第 37 回日本糖尿病合併症学会 (第 28 回日本糖尿
病眼学会総会と併催)
会 期 2022 年 10 月 21 日 (金)～22 日 (土)
会 場 国立京都国際会館 + WEB 開催で実施
会 長 稲垣暢也 (京都大学), 村田敏規 (信州
大学)
参加者 1,807 名
 - 2) 第 36 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会
会 期 2023 年 2 月 17 日 (金)～18 日 (土)
会 場 一橋大学一橋講堂 + WEB 開催で実施
会 長 綿田裕孝 (順天堂大学)
参加者 101 名
7. 出版事業
- 1) 会誌「糖尿病」第 65 巻 4 号, 第 64 回年次学術集
会抄録号～第 66 巻 3 号まで, 13 回発行
会誌「Diabetology International」Volume 13・
Number 2 - 4, Volume 14・Number 1, 4 回発行
 - 2) 糖尿病患者向け指導書
 - ①糖尿病食事療法のための食品交換表第 7 版
80,000 部発行
 - ②糖尿病治療の手びき 2020 改訂第 58 版 増刷なし
 - ③糖尿病性腎症の食品交換表 第 3 版 増刷なし
 - ④糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 第 2
版 増刷なし
 - ⑤カーボカウントの手びき 増刷なし
 - 3) 医師および医療スタッフ向け指導書
 - ①糖尿病療養指導の手びき 改訂第 5 版 増刷なし
 - ②糖尿病治療ガイド 2022-2023 100,000 部発行
 - ③糖尿病学用語集 第 3 版 増刷なし
 - ④糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第 8 版
増刷なし
 - ⑤小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン
増刷なし
 - ⑥糖尿病診療ガイドライン 2019 増刷なし
 - ⑦糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニユ
アル 増刷なし
 - ⑧医療者のためのカーボカウント指導テキスト
増刷なし
 - ⑨高齢者糖尿病治療ガイド 2021 増刷なし
 - ⑩高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017 増刷なし
 - ⑪小児・思春期 1 型糖尿病の診療ガイド 増刷なし
 - ⑫糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治
療に関するコンセンサスステートメント
増刷なし
 - ⑬統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド
増刷なし
 - ⑭日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝
改善手術に関するコンセンサスステートメント
増刷なし
8. 糖尿病週間
2022 年 11 月 13 日～19 日, 第 58 回全国糖尿病週間
の行事が一斉に行われた。テーマは「アドボカシー～

偏見に NO ! 〜」

9. 国際糖尿病連合会議など

1) IDF-WPR

IDF Congress が2022 年 12 月に開催され、延期されていた General Assembly が執り行われ、門脇理事が IDF-WPR の Chair に就任した。

2) EASD

第 10 回 East-West Forum が2022 年 9 月に第 58 回 EASD 年次学術集会 (2022 年 9 月/ストックホルム) にて開催された。

3) EFSD

日欧交換留学プログラムは 2022 年度の募集を延期した。2023 年度に再開する。

4) AASD

延期されていた The 13th IDF-WPR Congress, The 12th AASD Scientific Meeting が第 10 回日本糖尿病協会年次学術集会 (2023 年 7 月/京都) と同時開催することが承認された。

10. 合同委員会など

1) 糖尿病腎症合同委員会

2) 膵臓移植中央調整委員会

3) 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

4) 糖尿病と癌に関する合同委員会

5) 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会

6) 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会

7) 高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会

8) 日本循環器学会・日本糖尿病学会合同委員会

9) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 合同委員会

10) 日本糖尿病病理療法学会と日本糖尿病学会との実務担当者会議

11) 日本肥満症治療学会・日本肥満学会・日本糖尿病学会 3 学会合同委員会

11. 普及・啓発・後援事業

1) 日本糖尿病協会への協力

「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等

2) 世界糖尿病デーへの参加

「世界糖尿病デー」関連イベントの開催

3) 第 65 回春季日本歯周病学会学術大会

2022 年 6 月 3 日～4 日

4) 第 57 回日本理学療法学術研修大会 in とやま

2022 年 7 月 9 日～10 日

5) 第 27 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集

会

2022 年 7 月 18 日

6) 第 9 回日本糖尿病協会年次学術集会

2022 年 7 月 23 日～24 日

7) 栄養の日・栄養週間 2022

2022 年 8 月 1 日～7 日

8) 第 34 回日本循環器病予防セミナー

2022 年 8 月 6 日～7 日, 8 月 27 日～28 日

9) 第 8 回アジア栄養士会議 (ACD2022)

2022 年 8 月 19 日～21 日

10) 第 39 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー

2022 年 8 月 27 日～28 日

11) 第 65 回秋季日本歯周病学会学術大会

2022 年 9 月 2 日～3 日

12) 第 21 回日本先進糖尿病治療・1 型糖尿病研究会

2022 年 10 月 8 日～9 日

13) 第 29 回国際高血圧学会 (ISH2022)

2022 年 10 月 12 日～16 日

14) 公開セミナー腎臓病克服への挑戦—早期 CKD のエンドポイント—

2022 年 10 月 16 日

15) 世界糖尿病デー・健康啓発セミナー

2022 年 11 月 2 日

16) 2022 年度糖尿病予防キャンペーン西日本地区市民公開講座「糖尿病とともに生きる」

2022 年 11 月 12 日

17) 2022 年度糖尿病予防キャンペーン東日本地区市民公開講座「始めよう! アフター・コロナの糖尿病生活」

2022 年 11 月 20 日

18) 第 33 回分子糖尿病学シンポジウム

2022 年 12 月 3 日

19) 第 33 回日本糖尿病性腎症研究会

2022 年 12 月 3 日～4 日

20) 令和 4 年度「食育健康サミット」

2022 年 12 月 1 日

21) 一般社団法人 PHR 普及推進協議会

PHR 普及推進フォーラム 2023

2023 年 2 月 19 日

●庶務報告

1. 理事会 4 回開催

1) 開催月日 2022 年 5 月 11 日 (於兵庫県神戸市 + Zoom による Web 会議 定例理事会)

付議事項 (1) 2021 年度収支決算報告について 承認

(2) 2023 年度事業計画について

原案を承認

2) 開催月日 2022 年 5 月 13 日 (於兵庫県神戸市臨時理事会)

- 付議事項 (1) 理事長の選出について
理事の互選により、植木浩二郎
理事長を選出・承認
- 3) 開催月日 2022 年 12 月 11 日 (於東京都文京区
+ Zoom による Web 会議 定例理事会)
- 付議事項 (1) 2022 年度事業中間報告、収支決
算中間報告について 承認
(2) 2023 年度予算について
原案を承認
(3) 第 66 回年次学術集会について
原案を承認
(4) 第 69 回会長候補者選出について
候補者 3 名を決定
- 4) 開催月日 2023 年 2 月 16 日 (於東京都文京区 +
Zoom による Web 会議 臨時理事会)
- 付議事項 (1) 坂口賞について 以下案を承認
坂口賞は佐藤讓会員、内潟安子
会員に授与する。
(2) 学会賞について 原案を承認
(3) DI Best Impact Award につい
て 原案を承認
2. 学術評議員会 1 回開催
- 1) 開催月日 2022 年 5 月 6 日～9 日 (学会 HP の
My Page 内の所定箇所からの投票)
- 付議事項 (1) 第 68 回 (2025 年度春) 会長選
任に関する件
投票により金藤秀明会長を選任
(2) 坂口賞の承認に関する件
原案を承認
(3) 第 66 回年次学術集会の承認に関
する件 原案を承認
(4) 第 58 回「糖尿病学の進歩」の承
認に関する件 原案を承認
3. 社員総会 1 回開催
- 1) 開催月日 2022 年 5 月 12 日 (於兵庫県神戸市)
- 付議事項 (1) 2021 年度事業報告および収支決
算の承認に関する件 承認
(2) 2023 年度事業計画の承認に関す
る件 原案を承認
(3) 名誉会員の承認に関する件
原案を承認
(4) 第 68 回会長 (2025 年度春) の
承認に関する件
学術評議員会選出どおり承認
(5) 理事および監事の承認に関する
件 原案を承認

- (6) 定款および細則改定の承認に関
する件 原案を承認

●会員状況報告 (2023 年 3 月 31 日現在)

1. 役員等

1) 役員

理 事 20 名 (2021 年度末 20 名)

監 事 2 名 (2021 年度末 2 名)

2) 学術評議員 732 名 (2021 年度末 735 名, 3
名減)

2. 会員等

1) 名誉会員 39 名 (2021 年度末 37 名, 1 名減・
3 名増)

2) 正会員

2022 年 3 月末日会員数 17,478 名

2022 年度新入会 485 名

名誉会員へ -3 名

退会 -438 名 退会内訳

希望退会 241 名

会費未納による資格喪失 174 名

物故者 23 名

正会員 現在数 17,522 名 (44 名増)

3) 賛助会員

2022 年 3 月末日会員数 35 名

2022 年度新入会 0 名

賛助会員 現在数 34 名 (1 名減)

3. 物故会員

名誉会員 武田 倬

功労学術評議員 武居正郎 門田 悟 羽倉稜子

鬼頭柳三 三輪梅夫 河西浩一

学術評議員 小野百合 三好秀明

会員 小川潤一郎 三谷健 樹下華苗 中畑久

鼻清治 中川道元 長野功 浅見正和

後藤武男 宮腰夏輝 清水明 中野利美

山岡邦子 高木康介 加部恒雄

(敬称略, 連絡のあった方のみ)

2. 委員会報告および各種報告

〈出版に関する報告〉

1. 「糖尿病」編集委員会 委員長 神谷英紀

1) 委員会開催: 4 回 (2022 年 6 月 1 日, 9 月 4 日,
12 月 18 日, 2023 年 2 月 17 日)

2) 2022 年 6 月 1 日の委員会にて, 大澤春彦前委員
長の任期満了に伴い, 新委員長の選出を行った結
果, 神谷英紀委員に決定した。副委員長は内規に

基づき委員長指名により、大杉満委員が就任した。

3) 論文投稿状況および採択率 (4月1日～3月31日)

投稿数(前年)	原著	症例報告	委員会報告	編集者への手紙
62 (68)	27	30	4	1
採択	否	採択率 (前年)		
55	15	78.6% (62%)		

投稿数を増やす施策として、各地方会からの推薦演題の論文文化を強化することとした。各会からの推薦数を拡大し、従来一律4演題の推薦から、大会ごとに演題数が異なることを考慮し演題数の5%程度を推薦依頼した。

4) 出版状況

第65巻4号から第66巻3号までの12誌とSupplement (第65回年次学術集会抄録集)を刊行しJ-STAGEに掲載された。投稿論文の他に、2021年・2022年受賞講演、特集3企画、委員会報告、地方会演題抄録を掲載した。

受賞講演 (2021)			掲載号
女性研究者賞	今村美菜子	ヒトゲノム解析研究による2型糖尿病および糖尿病合併症の病因解明と新規治療法探索	65-4
受賞講演 (2022)			掲載号
リリー賞	土屋恭一郎	インスリン作用から紐解く糖尿病合併症の分子機構	66-1
	酒井真志人	シグナル依存性の転写調節による糖尿病の肝病態の制御機構に関する研究	66-1
女性研究者賞	高橋倫子	生物物理学的手法を用いたインスリン分泌機構の解明	66-1
特集			掲載号
【中村特集】内分泌疾患と糖尿病			65-7
【長坂特集】超高齢化時代の糖尿病診療			65-9
【藤田特集】糖尿病合併症の発症・進展予防に関する大規模臨床試験、エビデンス			65-10
【澤田特集】糖尿病における脂質異常症			65-11
【繪本特集】腎不全期における糖尿病治療の現状と新展			66-3
委員会報告			掲載号
2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム (日本糖尿病学会コンセンサスステートメント策定に関する委員会)			65-8
メディカルスタッフの現状と課題：糖尿病チーム医療、資格取得、学会発表、臨床研究、論文投稿、ジェンダー (糖尿病医療者・研究者のダイバーシティをpromoteする委員会)			66-1
地方会記録			掲載号
第95回日本糖尿病学会中部地方会			65-4
第58回日本糖尿病学会近畿地方会			65-5
第59回日本糖尿病学会中国四国地方会			65-6
第59回日本糖尿病学会関東甲信越地方会			65-7
第54回日本糖尿病学会北海道地方会			65-8
第55回日本糖尿病学会北海道地方会			65-10

第58回日本糖尿病学会中国四国地方会	65-11
第59回日本糖尿病学会九州地方会	66-1
第56回日本糖尿病学会北海道地方会	66-2
第60回日本糖尿病学会東北地方会	66-3

5) 専門分野の改定・査読者の拡充について

①会誌「糖尿病」とDI誌の共通課題として査読者の確保があげられ、査読者に対する負担軽減、および多くの専門家の知見による査読クオリティ向上のため、学術評議員への査読協力の働きかけを実施することとした。2023年5月の学術評議員改選後に、査読に関する承諾書の送付を実施する。

②会誌「糖尿病」とDI誌で使用されている専門分野の統一を目指し改定作業を進めている。改定後は両査読システムにおいて共通のカテゴリを使用するほか、マイページに「会員情報」の一部として登録できるようにする。

2. 「Diabetology International」編集委員会

委員長 中村二郎

1) 委員会開催状況 1回

2022年5月13日 (神戸国際会議場 4F 第13会場 401・402 および Zoom ウェブ会議)

2) 論文投稿状況及び採択率

2023年3月31日時点

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
Total Submitted	95	118	184	208	161	42
Monthly average	7.9	9.8	15.3	17.3	13.4	14
Total Decisioned	97	107	164	209	140	33
(Accept)	41	32	52	72	45	12
(Reject)	56 (Transfer 1)	75	112 (Transfer 1)	136 (Transfer 1)	95	21
Acceptance Rate	42%	30%	32%	34.4%	32.1%	36.4%

3) 出版状況

2022年 Vol.13-2～4, 2023年 Vol.14-1を予定通り刊行した。年4回 (1・4・7・10月) 季刊発行をしている。

4) 委員会報告掲載状況

Title	Volume & Issue
New classification and diagnostic criteria for insulin resistance syndrome	Vol.13-2
Dietary intake and physical activity in Japanese patients with type 2 diabetes: the Japan Diabetes Complication and its Prevention prospective study (JDCP study 8)	Vol.13-2

A consensus statement from the Japan Diabetes Society (JDS) : a proposed algorithm for pharmacotherapy in people with type 2 diabetes	Vol.14-1
---	----------

5) 依頼論文

Award・企画名	Name	Title	Article Type	Volume & Issue
特集「インスリン分泌」	Hisamitsu Ishihara	Metabolism-secretion coupling in glucose-stimulated insulin secretion	Mini-Review	Vol.13-3
	Mototsugu Nagao, Jens O. Lagerstedt, Lena Eliasson	Secretory granule exocytosis and its amplification by cAMP in pancreatic β -cells	Mini-Review	Vol.13-3
2022 年度リリー賞	Kyoichiro Tsuchiya	Role of insulin action in the pathogenesis of diabetic complications	Review Article	Vol.13-4
	Mashito Sakai	Exploring the signal-dependent transcriptional regulation involved in the liver pathology of type 2 diabetes	Review Article	Vol.14-1
第65回年次学術集会海外演者	Domenico Accili, et al	Reflections on the state of diabetes research and prospects for treatment	Review Article	Vol.14-1
	Carel le Roux, et al	Weight loss to disrupt Type 2 diabetes (仮)	Review Article	オンライン公開済

6) IF 取得および IF 向上への取り組みについて

- ① 2022 年 7 月 26 日に Impact Factor (IF) を算出している Clarivate Analytics 社より、DI がすでに収載されているデータベース：Web of Science Core Collection™ のすべてのジャーナルに IF が付与されることが決定され、DI への IF 付与が決定した。最初の IF は 2023 年 6 月に発表される予定である。
- ② 2020 年から 2021 年にかけて引用数は 152 から 242 と 1.6 倍に、引用可能論文数は 57 から 104 と 1.8 倍に増加した。
- ③ 引用されやすい種類の論文の強化として、Review Article の拡充に取り組んでいる。理事推薦海外研究者の寄稿企画が 2022 年 12 月の定例理事会で承認され、2023 年より本企画を加えることとした。

7) Best Impact Award

優れた論文を呼び込み国際誌として発展させるため設立された「DI Best Impact Award」において、第 3 回選考委員会を 2023 年 1 月に開催した。第 66 回日本糖尿病年次学術集会（鹿児島）3 日目にて発表・表彰を予定している。

8) 専門分野の改定・査読者の拡充について

- ① 会誌「糖尿病」と DI 誌の共通課題として査読者の確保があげられ、査読者に対する負担軽減、および多くの専門家の知見による査読クオリティ向上のため、学術評議員への査読協力の働きかけを実施することとした。2023 年 5 月の学術評議員改選後に、査読に関する承諾書の送付を実施する。
- ② 会誌「糖尿病」と DI 誌で使用されている専門分野の統一を目指し改定作業を進めている。改定後は両査読システムにおいて共通のカテゴリを使用するほか、マイページに「会員情報」の一部として登録できるようにする。

3. 「食品交換表」編集委員会 委員長 綿田裕孝

- 1) 委員会開催（1 回）：2022 年 5 月 24 日
- 2) ベトナム版食品交換表を作成するにあたり、味の素ファンデーションを通じて The Vietnam Nutrition Association から本学会に協力依頼を受けた

- ① 日本糖尿病学会「食品交換表」編集委員会から以下 3 名を協力者として推薦した
 - ・医師：下田誠也（熊本県立大学）
 - ・管理栄養士：関根里恵（東京大学医学部附属病院）
 - ・管理栄養士：深津章子（聖徳大学）

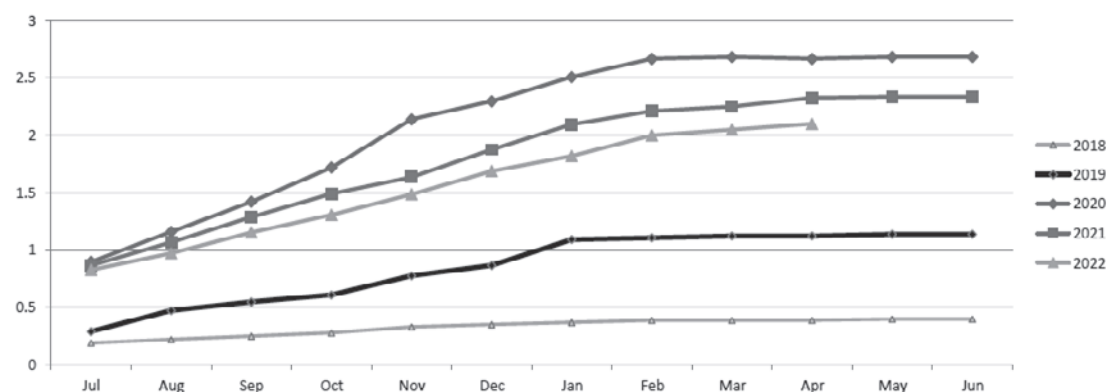
- 3) 「食品交換表 第 8 版」の発行に向けて、「日本食品標準成分表 2020 年版（八訂）」（文部科学省）に基づき改訂を行うことについて検討を行った

- ① [食事療法に関する委員会] での「食品交換表第 8 版」の位置付け・改訂方針の決定を受けて本委員会を開催したが、「日本食品標準成分表 2020 年版（八訂）」で大規模な改訂が行われたことにより更なる検討が必要であることから、管理栄養士分科会を開催した

- ② 管理栄養士分科会での検討結果を 7 月 10 日に行われた常務理事会に提出した上で、日本病態栄養学会への意見聴取も行った

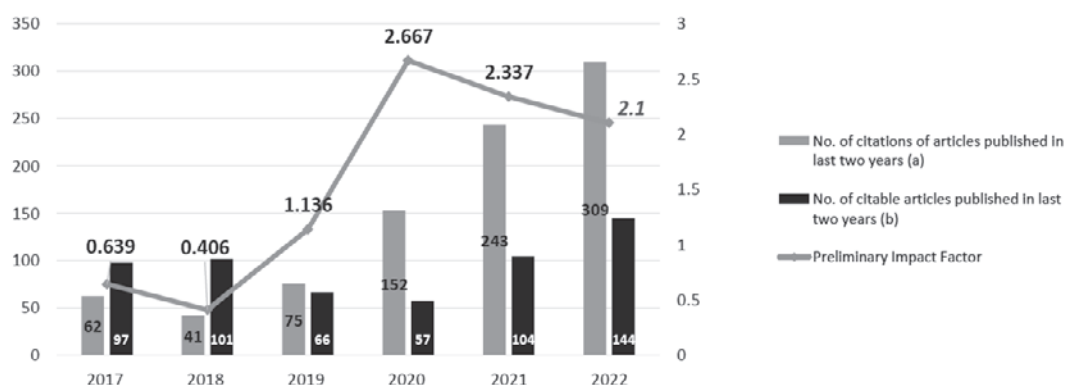
- 1 日本病態栄養学会からは『臨床現場で「日本食品標準成分表 2020 年版（八訂）」の活用が進み問題点の対策や改訂方針が十分に理解されてから実施しても遅くないと考える』旨の回答を得た

《仮 IF の推移 (年・月)》



Year	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
2018	0.188	0.218	0.248	0.277	0.327	0.347	0.366	0.386	0.386	0.386	0.396	0.396
2019	0.288	0.470	0.545	0.606	0.773	0.864	1.091	1.106	1.121	1.121	1.136	1.136
2020	0.895	1.158	1.421	1.719	2.140	2.298	2.509	2.667	2.684	2.667	2.684	2.684
2021	0.865	1.067	1.288	1.490	1.635	1.875	2.096	2.212	2.250	2.327	2.337	2.337
2022	0.826	0.972	1.153	1.306	1.486	1.688	1.819	2.000	2.049	2.1		

《現在までの仮 IF/引用可能論文数/引用数の推移 (年)》



Disclaimer: * Estimated with the data as of 15 Apr 2023

(Source: Clarivate Analytics, Web of Science, as of 15 Apr 2023)

③その後「食事療法に関する委員会」での議論結果を受け、2022年12月11日の定例理事会において『現時点で「食品交換表 第8版」の改訂に着手することは困難である』とのことおよび

び『次回改訂に向けて本委員会の委員選出方法・内規等の見直しを検討する』ことが確認された

4) 出版事業 売上・発行状況 (2022年4月～2023年3月)

部数	売上部数	(累計売上部数)	増刷部数	(累計発行部数)	刊行日
食品交換表 第7版	51,543	(988,612)	80,000	(1,070,000)	2013年11月1日
食品交換表活用編 第2版	2,474	(40,847)	0	(50,000)	2015年1月15日
糖尿病腎症の食品交換表 第3版	2,040	(28,515)	0	(35,000)	2016年6月1日
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	825	(16,077)	0	(20,000)	2017年4月11日
カーボカウントの手びき	884	(16,192)	0	(22,000)	2017年4月11日

5) 引用許可願いの審査状況 (2022 年 4 月～2023 年 3 月)

	申請	審査中	許可		取下	
			無条件	条件付	審査前	審査中
食品交換表 第 7 版	18		7	11		
食品交換表活用編 第 2 版	1			1		
糖尿病腎症の食品交換表 第 3 版						
医療者のためのカーボカウント指導テキスト	3		2	1		
カーボカウントの手びき	1			1		

4. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会

委員長 吉岡成人

- 1) 委員会開催 (1 回) : 2022 年 6 月 10 日
- 2) 委員長を前川 聡 前委員長より交代した
- 3) 2023 年 5～6 月を目途に本書 (2020 年版・第 58 版) の増刷が必要となることから、その際の修正をどの程度行うかについて検討がなされた。
 - ①糖尿病に関する用語について、本学会の理事会から、ステイグマやアドボカシーの観点から見直しを行うべきとの方針が出ていることを踏まえ、『糖尿病治療の手びき』に記載の用語について、本委員会において見直しを行い、修正を行ったうえでその経緯に関する追記を含めて「第 58 版増補版」として刊行することとした。
 - ②本書の発行後に委員の改選があったため、各担当項目について確認を行い、新任の委員については、同一支部の前担当の担当箇所を引き継ぐこととした。
 - ③「第 58 版増補版」の発行は 2023 年 7 月を予定している
- 4) 「糖尿病治療の手びき 2020 改訂第 58 版」(2020 年 5 月 30 日発行) の 2023 年 3 月末時点での売上部数は 27,066 部 (内 電子書籍分 : 191 部) である

5. 小児糖尿病委員会

委員長 浦上達彦

- 1) 委員会の開催 : 2 回 (2022 年 5 月 14 日, 11 月 13 日)
- 2) 日本小児内分泌学会との共著として、小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 改訂第 2 版 (南江堂) を作成している。2024 年 4 月刊行予定に向けて進めている。
- 3) 日本小児内分泌学会糖代謝委員会と協力して、1 型糖尿病 (インスリン治療を必要とする) 幼児の幼稚園・保育施設への入園取り組みガイドに続き、学校への入学取り組みガイド作成を予定している。
- 4) 「小児糖尿病患者における重症低血糖に関するアンケート調査」を実施。第 66 回年次学術集会で委員会報告を行う予定である。

- 5) 理事会からの「高インスリン性低血糖症の研究に関する要望書」検討依頼を受け、委員会にて協議を行った。

6. 「糖尿病治療ガイド」編集委員会

委員長 綿田裕孝

- 1) 委員会開催 : 1 回 (2023 年 2 月 2 日)
- 2) 「糖尿病治療ガイド 2022-2023」を 2022 年 4 月 15 日に発行し、2023 年 3 月末時点での売上部数は 55,856 部 (それ以外に電子書籍は 2,366 部) である
- 3) 植木理事長からの指示を受け、「糖尿病治療のエッセンス」の改訂作業を本委員会の委員 (除、日本医師会からの推薦委員) をメンバーとするワーキンググループ (WG) を設置し行った
 - ①糖尿病治療のエッセンス改訂 WG : 2 回 (2022 年 7 月 13 日, 9 月 24 日)
 - ②「糖尿病治療ガイド 2022-2023」と齟齬無く実践的な内容となるよう改訂案を作成し、日本医師会に提出した
 - ③ 2022 年 11 月に「糖尿病治療のエッセンス (2022 年版)」として日本医師会 HP に掲載された
- 4) 次改訂版「糖尿病治療ガイド 2024-2025」に向けて一部委員の交代を検討・上程し、2022 年 12 月 11 日の定例理事会にて承認を得た
 - ①第 67 回年次学術集会 (2024 年 5 月) までの発行に向けて作業を開始している
- 5) 前版「糖尿病治療ガイド 2020-2021」の累計売上部数は 92,304 部である

7. 「糖尿病学用語集」編集委員会

委員長 藤本新平

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった
 - ①必要な事項について、適宜メール審議による検討を行っている
- 2) アドボカシーに関する検討について
 - ①理事会からの要請を受け本委員会で対応方針について委員によるメール審議を行い検討した
 - ②日本糖尿病協会がアドボカシーの観点から問題があると指摘した英語用語についてピック

アップし、その使用状況について委員で分担して調査を行った

- 1 英語論文、英語ガイドラインで頻用されている用語が多いことが判明した
- ③今後、アドボカシー委員会での合意事項、常務理事会から出された方針、上記調査結果を踏まえ、学術活動に支障をきたさない範囲で、糖尿病協会がアドボカシーの観点から問題があると指摘した用語の取り扱いについて個々に対応方針を検討する予定である
- 1 用語の削除は極力おこなわず、アドボカシー上の問題点に配慮が必要である用語を注釈で示すことを考えている
- ④理事会からの命を受け 2023 年 1 月からは本委員会委員長としてアドボカシー委員会にも参画しており、アドボカシー委員会での議論内容も踏まえ本委員会としての対応も進めることで継続検討を行っている
- 3) ICD-11 用語の和訳確認について
 - ① 2022 年 7 月に厚生労働省 国際分類情報管理室より追加・変更が行われた用語の和訳確認依頼を受け、本学会での担当用語について確認結果を提出した
- 4) 引き続き「糖尿病学用語集」オンライン版では、「My Page」を活用し学会員からのご意見・ご提案を随時受け付ける窓口を設けており、投稿されたものについては委員会で審議し対応を検討する
- ①今年度 1 件（[DKA：糖尿病（性）ケトアシドーシス] の取り扱いについて）受領しており、当該会員に回答を送付した

8. 「糖尿病専門医研修ガイドブック」作成委員会 委員長 金藤秀明

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった。
- 2) 「改訂 9 版」（一部改訂）の発行（改訂周期：3 年）に向けて専門医認定委員会担当理事および専門試験委員会担当理事で編集委員のパート分担と執筆者の選定を行い、改訂作業に着手してきた。執筆および査読はほぼ終了し、2023 年の 6 月末～7 月初めには販売開始する予定である。

9. 「内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医研修ガイドブック」作成委員会 委員長 金藤秀明

- 1) 今年度は編集委員全体での委員会は開催しなかったが、内分泌学会および糖尿病学会の編集委員長および出版社（診断と治療社）の間では頻回に連絡を取ってきた。

- 2) 初版の出版は 2023 年春の出版に向けて、ガイドブックの内容、項目を内分泌学会と確認を行い、糖尿病分野の作成作業に着手してきた。執筆および査読は終了しており、2023 年度の糖尿病年次学術集会（鹿児島）で初版を販売開始する予定である。

10. 「糖尿病診療ガイドライン 2024」策定に関する委員会 委員長 谷澤幸生

- 1) 今年度前期には委員会を開催しなかった
 - ①SR ワークショップの事前打合せとして、策定・評価両委員長および両委員長補佐、加えて SR サポートチームのリーダー・サブリーダーによるコアメンバー会議を 6 月 19 日に開催した
 - ② 7 月 18 日に SR ワークショップを開催し、文献検索・文献スクリーニング等に関するレクチャーを行った
- 2) 各策定委員による一次原稿の執筆および評価委員による一次原稿の評価、評価結果の策定委員へのフィードバックについて各章ごとに進行している
- 3) 「高齢者糖尿病診療ガイドライン」委員会より SR サポートチームに CQ の評価依頼を受け、2022 年 8 月に対応した
- 4) 2023 年 7 月 29 日に策定委員会を開催し、各ステートメントのグレード決定のための投票を行う予定としている
- 5) 「糖尿病診療ガイドライン 2019」の売上部数は 9,224 部（内 電子書籍分：229 部）である（2023 年 3 月末時点）

11. 災害時糖尿病診療マニュアル 学会代表 荒木栄一

- 1) 委員会開催：1 回（2023 年 2 月 17 日）
- 2) 2014 年に初版を発行した本書籍について、改訂版の発行に向け本委員会が発足した。
 - ①前版は本学会のみで作成したが、今回は日本糖尿病協会との合同委員会として設置することが 2022 年 12 月 10 日の定例理事会で承認された。
 - ②あわせて、担当出版社は前版の発行も担当した株式会社文光堂とすることで承認された。
- 3) 項目立ての検討・執筆パート分担・執筆者の選定を行い、出版社より執筆依頼を送付した。2024 年の年次学術集会に間に合う日程での発行を目指し改訂作業を進める。

〈学術調査研究・教育に関する報告〉

12. 学術調査研究・教育委員会 委員長 荒木栄一

- 1) 委員会開催：3回（2022年5月8日，2022年9月18日，2023年1月6日）
- 2) 日本医学会総会奨励賞の本学会応募枠2名について，6月1日～8月21日の受付期間で募集し，9名の応募者（内，1名辞退）から2名を選考し，日本医学会総会へ推薦した。
- 3) 5月8日に開催した委員会にて，今後のリリー賞および女性研究者の棲み分けを検討し，理事会承認を経て，学会賞規程の変更を実施した。
- 4) 本年度の学術調査研究の申請について7月1日～7月29日の受付期間で募集した。9月18日に委員会を開催し，1件の延長申請および4件の新規申請について検討し，1件の延長，2件の採択を決定した。同日の委員会においては2023年度の各審査委員会の委員の決定および，本委員会の委員内規案についても併せて検討した。
- 5) キャリアデベロップメント報奨金について，7月1日～7月29日の受付期間で募集した。9月18日に開催した審査委員会で選考を実施し，理事会の承認を得て，10月20日にHPで2名の受賞者を公表した。
- 6) 1月6日に開催した委員会にて，大学院にて学位を取得後，研究を継続したくても研究に専念できる環境がなかなか得られない会員を支援する新たな制度について検討した。

13. 学術調査研究等倫理審査委員会

委員長 繪本正憲

- ・倫理審査状況： 本年度は新規の申請なし
1型糖尿病における新病態の探索的検討に関する調査研究委員会の「劇症1型糖尿病における感染因子の検討」の変更申請について審議し，承認した。
- ・委員会構成員： 本年2月に委員長および副委員長の交代が行われ，それに伴い事前審査委員が2名とも交代した。また，本学会の顧問弁護士交代に伴い，新たにご就任頂いた顧問弁護士に本委員会委員として加わって頂くこととなった。

（新任 敬称略）

委員長：繪本正憲，副委員長：篁俊成，顧問弁護士：水谷渉

事前審査委員：竹下有美枝，森岡与明

14. 年次学術集会運営委員会 委員長 荒木栄一

- 1) 委員会開催：1回（2022年12月25日）
- 2) 第66回年次学術集会は西尾善彦会長のもと鹿児島にて2023年5月11日（木）～13日（土）での開催，第67回年次学術集会は植木浩二郎会長のもと東京にて2024年5月17日（金）～19日（日）での開催を予定している
- 3) 第68回年次学術集会については岡山で開催する方向で金藤秀明会長により検討・準備を進めて頂いている

15. 「糖尿病学の進歩」運営委員会

委員長 荒木栄一

- 1) 委員会開催：1回（5月27日）
- 2) 上記委員会では，第56回「糖尿病学の進歩」の開催報告を大澤春彦世話人が行い，第57回の準備状況について馬場園哲也世話人がプログラム等の概要，会場（東京国際フォーラム）の使用計画，予算案および現地+LIVE配信のHybrid開催を予定していることについて報告した
- 3) 第58回については池上博司世話人により京都での開催を予定している

16. 食事療法に関する委員会 委員長 寺内康夫

- 1) 委員会開催：4回（2022年4月1日，8月3日，10月18日，2023年3月31日）
- 2) 「食品交換表 第8版」の位置付け・改訂方針を検討した。「日本食品標準成分表2020年版（八訂）」では，2010年版，2015年版から大規模に改訂されており，両者の整合性を図るために十分な準備が必要であると判断した。食品交換表編集委員会の構成も含め，今後の方針を理事会で議論していただくこととした
- 3) 食品交換表は患者を指導する管理栄養士を対象とするものとし，患者向けには新たに資料を作成することとした
 - ①患者向け資料作成のために以下メンバーによるワーキンググループを設置した
医師：久米真司（WGリーダー），藤坂志帆，松村剛/管理栄養士：幣憲一郎，深津章子，本田佳子
 - ②WG開催：6回（9月1日，9月13日，10月12日，11月1日，1月10日，3月22日）
- 4) 第66回年次学術集会にて以下シンポジウムを開催する予定である
シンポジウム 26「食品成分表8訂のコンセプト

の理解と糖尿病食事療法への応用」

5月13日(土) 15:00~17:30

17. 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会
委員長 西尾善彦

今年度は委員会を開催しなかった。

18. アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会
委員長 中村二郎

糖尿病症例 68,555 例, 非糖尿病症例 164,621 例が登録され, データ解析が終了した。第 66 回年次学術集会において結果を発表するとともに, 会誌「糖尿病」などに委員会報告として投稿する予定である。

19. 1 型糖尿病の成因・病態に関する調査研究委員会
委員長 池上博司

委員会にてかねてから議論を重ねてきた緩徐進行 1 型糖尿病の診断基準 (2023) が理事会の承認を得, 学会 HP (http://www.jds.or.jp/modules/study/index.php?content_id=50) にて公開され, さらに, 会誌「糖尿病」の委員会報告として受理された。現在, 英文にて緩徐進行 1 型糖尿病の診断基準 (2023) の委員会報告を作成中であり, さらに今後, 緩徐進行 1 型糖尿病の治療に関するステートメントについても作成予定である (統括: 島田朗委員)。

川崎委員が中心となってまとめた, GAD 抗体 ELISA 法に関する論文 “Bivalent GAD Autoantibody ELISA Improves Clinical Utility and Risk Prediction for Adult Autoimmune Diabetes” が J Diabetes Investig 誌に受理, 掲載された (J Diabetes Investig 2023; 14: 57-581) (統括: 島田朗委員)。

「免疫チェックポイント阻害薬による 1 型糖尿病」については, 最終的に 115 名をエントリーし, 現在論文執筆中である。HLA や自己抗体に新たな所見を見出している。新規課題として, 「劇症 1 型糖尿病発症時 (超急性期) の病態探索」は倫理委員会承認を完了, 「COVID-19 に関連する 1 型糖尿病に関する病態探索」については具体的な準備を進めている (統括: 今川彰久委員)。

20. 単一遺伝子異常による糖尿病の成因, 診断, 治療に関する調査研究
委員長 稲垣暢也

1) 本委員会では, 糖尿病診断時年齢 35 歳未満で, 1 型糖尿病関連自己抗体陰性の症例につき, 全国の学会員所属医療機関からの症例募集を行っている。

2023 年 3 月 30 日までに, 症例および血縁者の計 230 名に関してゲノム DNA 検体と臨床情報が研

究班に送付され, うち 2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 30 日に到着したゲノム DNA 検体は 92 件 (前期 6 ヶ月で 49 件, 後期 6 ヶ月で 43 件) であり, 2021 年度に到着した検体数より多く, 順調な症例集積がなされている。

2) 単一遺伝子異常による糖尿病の原因遺伝子 (*HNF4A*, *GCK*, *HNF1A*, *PDX1*, *HNF1B*, *NEUROD1*, *INS*, *ABCC8*, *KCNJ11*, *WFS1*, *INSR* 遺伝子) につき, 次世代シーケンサーによる解析にて変異の検出に十分なカバレッジレベルを得られる系を 2020 年度までに確立している。これを用い, 2023 年 3 月 30 日までに, 前述の 230 検体のうち 184 検体の解析を完了し, 解析依頼者への解析結果の報告を行った。

3) 解析結果をもとに, 本邦の単一遺伝子異常による糖尿病につき, 原因遺伝子別の特徴を分析するとともに, 本邦に適したスクリーニング手法を検討した。この成果は, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会 (2023 年 5 月 12 日 鹿児島市 シンポジウム 17) において, 調査研究の事務局担当者である吉治智志 (京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学) を筆頭演者として発表されることが決定している。

21. 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会
委員長 松久宗英

1) 委員会を 1 回 (2023 年 3 月 18 日) 開催した。

2) 「JMDC・NDB を用いた重症低血糖のリアルワールド実態調査」については, 現在 JMDC データの解析を実施している。

①糖尿病治療薬の影響を明確化するためデータ分析の粒度を月から日へ変更した。

②糖尿病治療薬の処方割合とグリメピリドにおいては処方量も含めた経年推移について層別化してまとめた。

③重症低血糖と合併症 (心血管イベント, 心不全, 骨折) の関連について新たに分析した。

3) 「J-DREAMS を用いた重症低血糖後の心血管イベント発症前向き調査」では, 心血管疾患の発症が少数 (320 例中 10 例) の為, 記述統計にとどめ, 重症低血糖発症例と非発症例との臨床背景の横断的比較を主体としてまとめる方針とした。

①高リスク群での CGM を用いた無自覚性低血糖調査については, 本調査に協力いただく施設での倫理審査を依頼し, 承認が得られた施設での調査を開始している。

②現在, 目標症例の 1/3 の登録状況で, 症例数の達成に向け, 各施設での状況把握ならびにデー

タ登録推進を実施している。

- 4) 今後の調査のまとめに当たり、descriptive な部分を委員会報告として「糖尿病」,「Diabetology International」へ投稿し、探索的内容は学術論文とする方針とした。

22. 膝・膝島移植に関する常置委員会

委員長 稲垣暢也

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった。
- 2) 膝島移植については、組織移植学会カテゴリー I の組織バンクを有し、同種死体膝島移植術に関する施設基準（特掲診療）を満たしている施設は、藤田医科大学、国立国際医療センター、京都大学の3施設。保険収載された2020年4月以後計8回の膝島分離・移植が実施され、最終は2022年9月11日。
- 3) 膝島移植の機会において移植に利用できない膝島が発生した場合、研究へ転用するシステムの構築を推進している。日本組織移植学会、日本膝・膝島移植学会と本学会に所属する委員から構成される研究用膝島供給事務局会議の第2回を2022年8月1日に開催し、その合議により、京都大学医学部附属病院の膝島バンクから群馬大学生体調節研究所への膝島研究転用をトライアル的に実施すべく、準備を進めている。

23. 「インクレチン治療のヒト膝腫瘍発生リスクに関する臨床病理学的研究」調査委員会

委員長 八木橋操六

- 1) 今年度は委員会を開催しなかった。
- 2) 現在、調査は終了しており、委員会報告論文の作成に向けて活動中である。

24. 「2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討 (J-DOIT3)」

委員長 門脇 孝

2016年4月に開始となったJ-DOIT3追跡研究は当初予定された2021年6月まで5年間の定期調査期間（追跡1期）が終了しており、その解析結果を公表する方針としている。データ固定のために各参加施設に対して、定期調査の入力とクエリへの対応を依頼し、ほぼ全ての症例において固定が完了した。一方で、追跡研究開始時の同意取得とその後の同意書の保管が適切に行なわれているか、全施設に対して確認を行ない、一部の事例については中央倫理委員会、及び施設内倫理委員会への問い合わせを要した。今年度に予定していたデータセンターからの固定データの出力、並びに統計解析は、その結論が出

揃ってから行なう方針としたが、2023年度早々には可能となる見込みである。

データ固定の過程で、4年目調査以降の生死に関する情報が、80例において不明であることが明らかになった。そこでこれらの症例について、各参加施設に依頼して住民票照会を含めた生存確認を進め、67例について生死を確認することができた。また4年目調査以前に中止となった71例についても、各参加施設に中止の経緯などを問合せ、うち21例では本人からの同意撤回がなく、データフォローが可能と判断できることを確認した。生死不明、または中止となった残る計63例がいわゆる脱落に該当するものと考えられたが、これは追跡研究への参加者の3.6%にあたり、介入研究における脱落が212例(8.3%)であったことと比べても、低率に抑えることができたものと考えている。

一方で介入研究のサブ解析として、介入試験における統合的な治療が各血管合併症に及ぼす影響を明らかにするため、各危険因子のupdated meanに着目して解析してきた。従来はupdated meanを連続量として扱ってきたが、具体的な治療の目標値を検討するため、カテゴリー化して扱う解析を新たに行なった。特にHbA1cについて、6.5%未満を基準に、6.5-7.5%, 7.5-8.5%, 8.5%以上におけるリスクをイベントごとに解析した。その結果、主要評価項目のハザード比は6.5-7.5%で1.44と上昇傾向を示し、7.5-8.5%で1.93, 8.5%以上で2.12といずれも有意な上昇を示した。その内訳についても解析したところ、総死亡のハザード比は6.5-7.5%で1.40であり、有意な上昇ではなかったが、7.5-8.5%で2.53, 8.5%以上で3.55といずれも有意な上昇を示した。心筋梗塞のハザード比は6.5-7.5%で4.13であり、有意な上昇ではなかったが、7.5-8.5%で9.00と上昇傾向で、8.5%以上で18.32と有意な上昇を示した。脳卒中については、6.5-7.5%で0.83, 7.5-8.5%で1.24, 8.5%以上で1.79であったが、いずれも有意ではなかった。

更に追跡研究は、10年目まで継続することが認められており、2022年の1月から6月にかけて、6年目調査を行なった。そのEDC入力は、2023年3月末時点で9割近くで完了しているが、引き続きイベント報告も含め、必要な入力の促進を進めていく方針である。なお6年目調査ではADLなどを評価するDASC-8が項目に含まれており、その結果を紙媒体でなくEDCを用いて収集できるよう、今年度に入ってシステム改修を加えた。その入力は2023年3月末時点で、6年目調査で「来院あり」だった症例のうち9割近くで完了している。

また2期のイベントはこれまでに242件が報告さ

れており、そのデータクリーニングを開始した。2023年3月末までに8割強にあたる202件のクリーニングを完了し、その内訳は死亡7件、大血管症イベント19件、腎症イベント138件、網膜症イベント38件であった。

研究期間の延長を含む研究計画書の改訂は、中央倫理委員会、並びに運営委員会の承認を受けて行なうが、両委員会には日本糖尿病学会からの代表が少なくとも1名含まれ、学会によるガバナンスが担保された体制となっている。

25. 我が国における1型糖尿病の実態の解析に基づく適正治療の開発に関する研究委員会

委員長 島田 朗

- 1) 委員会開催：2回（2022年4月23日、11月12日 Zoom 会議）
- 2) 研究期間が令和5年度まで延長された。
- 3) NDB 班、レジストリ班、適正治療検討班の3つの班において、調査を行っている。

[NDB 班]

1型糖尿病の人数については、頻回注射もしくはCSII 治療中で、かつ、SMBG を行っている症例で定期受診している場合、95,000 人程度であった。新しいデータについては、まだ厚労省からもらえておらず、保留状態である。

[レジストリ班]

125 施設から4,405 症例が登録され、7月までに分担して解析する予定である。

[適正治療検討班]

CSII の有無により、血糖コントロールに差があることが示された（CSII ありが良好）。今後は、これらのデータを踏まえて、1型糖尿病の適性治療について何らかのリコメンデーションが出せるように議論する予定である。また、小児の第5次コホートについての解析結果が報告された。

いずれの班についても、コロナ禍前の2019年のデータで揃えて、すり合わせをする。

26. 糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究委員会

委員長 羽田勝計

本研究課題は、厚生労働省科学研究課題として2016～2018年度に採択され、研究継続するために、本学会の学術研究として2019年に申請した。本委員会は2020年8月に学術調査研究・教育委員会により申請が承認されて発足した。コロナ禍の中で委員の対面での集合が困難であることから、委員会は開催されていない。ただし、2020年11月17日に

Web 会議を開催した。

委員会で継続研究となった「糖尿病網膜症の重症化および足病変の多施設前向き大規模コホート研究」では追加の解析を行い、2021年10月に大阪で開催された第36回日本糖尿病合併症学会の日本糖尿病眼学会との「合同シンポジウム」の中で報告した。内容としては、下記のことが示唆された。1) 網膜症のない（NDR）患者における増悪因子はインスリン治療（HR1.67）、罹病歴（HR1.19）などであった。2) 非増殖網膜症（NDR+SDR）の悪化因子は上記の他に腎症病期が挙げられるが、尿中アルブミン排泄のカテゴリー（HR1.368）に依存している。3) 下肢病変の増悪因子は年齢、現在の喫煙、過去の飲酒、糖尿病網膜症、糖尿病腎症であった。

加えて網膜症イベント（網膜症発症+硝子体手術+光凝固+抗VEGF+ステロイド）と足のイベント（ABI0.9未満+下肢切断+下肢血行再建術+重症足感染）の重複をアウトカムとしてさらに解析をおこなった。結果としては、残念ながら「年齢」のみが有意なリスク因子であった。したがって、糖尿病の細小血管合併症の網膜症と動脈硬化性疾患である足病変、両者のリスクは別々なことが示唆された。

現在、その内容についてさらに解析し、論文作成中である。

なお倫理申請の延長を行い受理された。

27. レジストリ作成を通じた糖尿病をきたす希少疾患の治療標準化研究委員会

委員長 小川 渉

研究の背景と目的

新薬や新規デバイスの開発により我が国の糖尿病患者の管理は飛躍的に向上しつつあり、今後、患者の予後や健康寿命の更なる改善・延長が期待される。一方で遺伝的あるいは免疫学的異常によって生じる希少疾患に伴う治療抵抗性の糖尿病が存在し、臨床的特徴や病態の理解が未だ十分でないことも相まって、治療に難渋し、不良な予後を辿る例も多い。遺伝的インスリン抵抗症、B型インスリン抵抗症、脂肪萎縮症、及びWolfram 症候群は、そのような治療抵抗性の糖尿病を伴う希少疾患の代表的なものである。

本研究は医学情報電子管理システム REDCap を用いて、遺伝的インスリン抵抗症、B型インスリン抵抗症、脂肪萎縮症、及びWolfram 症候群の疾患レジストリを構築することを目的とする。レジストリで収集した情報を活用して、臨床的特徴や病態、治療実態を把握し、標準的治療法の確立を目指す。

方法・計画

遺伝的インスリン抵抗症、B型インスリン抵抗症、脂肪萎縮症、及びWolfram症候群の4疾患について臨床情報を登録出来る電子レジストリを、電子臨床情報収集システムであるREDCapを用いて構築する。その後、内分泌学会や小児内分泌学会との連携など様々な方法を活用して上記4疾患の診療情報を収集し、登録した症例の診療情報は半年ごとに更新する。最終的にレジストリで収集した情報を取りまとめて十分な情報が得られた疾患については標準的治療法についての提言の発表を目指す。

進捗状況

患者基本情報、原因遺伝子変異、身体所見、各種検査所見、治療内容を収集することに決まり、各疾患のREDCapを用いた電子レジストリの構築を完了した。電子レジストリの構築完了後に倫理審査を受けることが可能となったため、2023年2月に実施された神戸大学医学倫理委員会で倫理審査を受け、承認された。2023年3月より神戸大学でのレジストリ登録を開始し、遺伝的インスリン抵抗症1例の登録が完了した。本事業の周知のため、日本糖尿病学会認定教育施設の代表者へ案内文を郵送した。また、日本小児内分泌学会員へのメールによる案内文の通知を行うべく、日本小児内分泌学会理事会へ依頼済みである。

28. 急性期病院における糖尿病専門医の役割の解析：DPCデータの解析 委員長 戸邊一之

1) DPC解析について

①進捗状況

2023年3月9日に横浜市立大学において倫理審査委員会の承認を得ることができた。また糖尿病学会より糖尿病専門医数について2つの情報を取得した。1つ目は認定教育施設より報告された情報を基にした糖尿病専門医数データである。2つ目は各専門医の自己申告による糖尿病専門医数のデータである。糖尿病専門医数の正確かつ悉皆的な評価を目指し、今後2つのデータベースを比較検討する予定である。2023年3月22日にはDPC研究班よりDPCデータを取得した。2023年4月4日には委員会を開催し、本学術調査研究委員会のメンバーと今後の研究方針について確認することができた。既にデータ解析に着手することができており、今後は速やかな論文報告を目指している。また第66回糖尿病学会年次学術集会のシンポジウムで本研究について報告を予定している。

2) 第2回目のアンケートについて

①結果概要

教育指定病院637施設を対象にアンケートを行い、312施設(49.0%)から回答を得た。内訳は大学病院が26%、その他が74%であった。他科入院中に糖尿病内科で常時血糖管理を行っている患者数は1日あたり平均34人(中央値30人)であり、介入理由の内訳は手術が48%と最も多かった。他科入院中の血糖管理を行うのに平日は平均2.4時間(中央値2時間)、そのうち時間外に平均1.1時間(中央値1時間)働いており、休日も平均1.3時間(中央値1時間)を費やしていた。これらは全ての診療時間のおよそ30%に相当した。全施設の75%が他科入院中の血糖管理を継続することに困難を感じており、他科入院中の血糖管理に加算が必要だという意見が96%を占めた。入院患者に対する糖尿病チーム医療加算がないことにより、院内のその他のチーム医療と比べて難しさを感じている割合も79%と高率であった。

②考察

全国の急性期病院において糖尿病内科医が困難に直面している様子が明らかになった。糖尿病内科医による他科の血糖管理への介入理由は手術が最も多数を占め、DPCデータで手術予後を解析することは理にかなっていると考えられる。

多くの医師が、紹介がなかったためにHHSや低血糖が起きたという経験を有しており、糖尿病学会による保険算定の推進は、医療安全上の観点からも重要であり期待される。

29. 日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開 委員長 梶尾 裕

本研究は、日本人1型糖尿病の大規模データベースとしては、継続的な検体収集と解析も行う国内唯一の前向き縦断的データベースである。検査結果データはREDCapを用いて各施設から電子的に収集し、国立国際医療研究センター内のJCRACデータセンターで管理する。試料は国立国際医療研究センターですべて保管、管理する。

昨年度は班会議を2023年3月26日に行った。

現在の参加施設は18施設、累積登録数は342例(急性発症型178例、緩徐進行型117例、劇症型47例)、中止症例93例の報告があった。

解析状況については、資料をもとに5件の報告があった。インスリン分泌の維持や枯渇に関する報告が2件、1型糖尿病の病態への膵島関連自己抗体の

関与に関する報告が2件、遺伝子解析についての報告が1件あった。これらの報告の一部についての論文文化、糖尿病学会年次学術集会での発表、また、新たな解析についての提案があり了承された。

〈学会認定事業に関する報告〉=====

30. 専門医認定委員会 委員長 金藤秀明

1) 委員会開催数：4回（6月12日、8月20日、9月11日、11月20日）

11月20日には第33回学会認定糖尿病専門医試験に関する合否判定を行った。

2) 各種新規認定申請について

【糖尿病専門医】

第33回学会認定糖尿病専門医試験を10月23日（日）パシフィコ横浜で実施した。受験申請者数390名〔新専門制度対象者87名含む〕のうち書類審査合格者384名、業績不足などで不合格者6名であった。前年度受験見送り措置希望者45名から申請があり受験者数は429名となった。試験当日の受験者は394名、コロナ禍における専門医試験の対応措置にて受験見送りを希望した者を含めて欠席は35名であった。合格者は261名〔内科244名 小児科17名〕で受験者全体から算出した合格率は66%であった。

【研修指導医】

2022年度に学会認定研修指導医の新規認定申請にかかる書類審査（随時審査含む）を行い114名が認定された。

【教育施設】

2022年度に学会認定教育施設の新規認定申請にかかる書類審査を行い、認定教育施設（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）26施設、教育関連施設5施設、連携教育施設（小児科）2施設が認定された。

3) 各種更新認定申請について

認定期間が2023年3月31日までの専門医、研修指導医、教育施設の更新審査を行い専門医1,118名、研修指導医776名、認定教育施設（Ⅰ・Ⅱ）135施設、教育関連施設4施設、連携教育施設（小児科）5施設が認定された。

4) 専門医認定委員会の検討事項について

- ・第33回学会認定糖尿病専門医試験の受験希望者の3年間の研修歴が他科の糖尿病診療期間であったことが判明し検討した結果、研修歴とは認めないこととなった。
- ・教育施設の新規申請や更新申請で提出を求めている診療記録用紙の写し（外来、入院1症例ずつ）について施設によっては患者の同意が必要になるため提出が難しい。との問い合わせが

あり検討した結果、提出不要とすることとなった。

- ・連携教育施設（小児科）や小児科領域の学会認定糖尿病専門医としての申請要件で小児サマーキャンプは「連続2泊3日以上に参加」を求めているが日本糖尿病協会はコロナ禍以降、デイキャンプ、オンラインキャンプなどを認める動きがあることから当面はコロナ禍に限り「日帰り参加」「オンライン参加」も認めることとなった。

5) 新専門医制度について

2023年3月30日に日本専門医機構主催で補完研修領域説明会が開催された。糖尿病内科領域、肝臓内科領域、消化器内視鏡領域が条件付きで認められることが示されたがサブスペ研修細則で規定されている研修方式が複雑であることから3領域の研修開始時期などに齟齬があることが判明したため、今後も引き続き日本専門医機構と協議を行っていくこととなった。

31. 内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医認定委員会 委員長 金藤秀明

1) 委員会開催数：3回

糖尿病分野の試験問題作成のため下記の日程で開催した。

- ・11月6日：問題選定
- ・11月23日：日本内分泌学会との合同ブラッシュアップ会議（WEB）
- ・12月25日：日本内分泌学会との合同最終校正会議（WEB）

2) 内分泌代謝・糖尿病内科領域について

2022年4月に日本専門医機構から内分泌代謝・糖尿病内科領域が承認された。

下記の日程で領域（暫定）指導医申請と領域専門医受験申請を行った。

- ・領域（暫定）指導医申請受付：4月1日～7月8日まで
- ・領域専門医受験申請受付：8月1日～9月9日まで

3) 領域専門医受験申請にかかる書類審査について
糖尿病分野の病歴要約の審査を10月～11月にかけて実施した。

4) 領域専門医試験の実施状況

実施日：2023年2月26日（日）

会 場：京都市勧業館みやこめっせ

受験者：135名

欠席3名。

合格者：134名（合格率99.3%）

5) その他

日本専門医機構システムへの研修カリキュラム登録に関して糖尿病学会もしくは内分泌学会の認定教育施設の教育責任者あてに Google フォームから施設基本情報の登録依頼を行った。

32. 専門医試験委員会 委員長 西尾善彦

1) 委員会開催数：4回（2022年5月13日，7月30日，9月4日，11月6日）

2) 第33回学会認定糖尿病専門医試験にむけて，以下のとおり委員会を開催した。

・5月13日「第57回専門医試験委員会」：試験方法と出題問題の作成分担・口頭試験担当者・試験監督担当者を決定した。

・7月30日：委員長および数人の委員により，試験委員によって作成された問題のチェックを行った。

・9月4日：委員全員で出題する問題の選定を行った。

3) 第33回学会認定糖尿病専門医試験を10月23日にパシフィコ横浜で実施した。2022年度の受験者は394名（内科372名，うち，新専門医制度対象者85名，小児科8名，小児科特例14名）であった。

4) 11月6日「第58回専門医試験委員会」にて試験結果案を作成し，11月20日に専門医認定委員会へ報告を行った。

5) 次回，第34回は2023年10月22日パシフィコ横浜にて実施予定である。

〈その他学会活動に関する報告〉

33. 選挙管理委員会 委員長 戸邊一之

1) 今年度は委員会を2023年1月16日に開催した。

2) 本委員会では，細則に沿って，支部への候補者の推薦依頼を行い，理事会を経て決定された候補者に対し，例年と同様に所信の提出を求め，委員会で承認のうえHPの会員専用ページに掲載した。

3) 過去3回（第66回・第67回・第68回）の会長選挙と同様，第69回会長選挙に関しても事前にMyPage内での投票実施を予定している。

34. 将来計画委員会 委員長 綿田裕孝

1) 委員会開催（2回）：2022年8月2日，2022年9月8日にWebで開催した。

2) 2023年4月に開催される「日本医学会総会2023東京」で展示するポスターを制作した。

3) 大学院生，ポスドクに対して金銭面をサポートする制度について，本委員会で検討し，対象者およ

び金額等の制度設計を理事会に提案した。

35. 定款・細則検討委員会 委員長 綿田裕孝

1) 今年度は委員会を開催しなかった。

2) 2022年5月に開催された社員総会で定款変更の決議に必要な出席数・委任数が得られ，定款変更が実現した。これに伴い，今後は3分の1以上の社員の出席で社員総会が成立することとなった。また，会費支払い義務の不履行による資格喪失の猶予期限を細則に定めることに変更したことに伴い，これまでに比べて猶予期限の変更が容易に実施可能となった。

36. 糖尿病医療者・研究者のダイバーシティを promote する委員会 委員長 佐藤麻子

1) 委員会開催：2回（2022年6月26日，11月23日）

*上記委員会の他に，委員長・副委員長・Grリーダーによる打合せ：1回（2022年5月13日）/メディカルスタッフグループ小委員会：3回（2022年8月1日，11月30日，2023年3月31日）を開催した

2) 年次学術集会と地方会

①第65回年次学術集会において，5月13日にシンポジウム「糖尿病研究のすすめ～初めの一歩を踏み出し実現へ～」と，5月14日にシンポジウム「メディカルスタッフ・若手医師へのリリー賞受賞者による研究解説～糖尿病大血管症のリスク予測と予防について～」を開催した。

②2022年度 地方会において，以下本委員会企画シンポジウムを開催した。

-1 2022年10月8日 九州：「ダイバーシティで推進するキャリア形成と職場づくり」

-2 2022年10月16日 北海道：「小さなワクワクが開いた扉～医療スタッフ優秀演題賞受賞者が伝えたい臨床研究のおもしろさ～」

-3 2022年11月5日 近畿：「研究計画書・倫理審査書類のお悩み相談」

-4 2022年11月12日 中国・四国：「チーム医療を考えるーダイバーシティ&インクルージョンー」

-5 2022年11月19日 中部：「働き方の創意工夫で高める糖尿病の診療と研究力」

-6 2023年1月28日 関東甲信越：「働き方改革を知り，明日に活かす」

3) 2021年アンケート調査の委員会報告について

メディカルスタッフグループを中心に作成した論文『メディカルスタッフの現状と課題：糖尿病チーム医療，資格取得，学会発表，臨床研究，論文投稿，ジェンダー』が会誌「糖尿病」にて採択された。

- 4) Web サイト『糖尿病医療者・研究者の「多様なキャリア」を応援する』（本委員会 HP）

① 2021 年 3 月 31 日に一部コーナーの先行公開を行っていたが，4 月 28 日に全体公開した。

② 上記全体公開と併せて「それぞれのストーリー」に記事を 3 件新規掲載し，加えて旧サイト「女性糖尿病医サポートの取り組み」からも記事を移行した。

③ 2022 年 12 月に「それぞれのストーリー」に記事を 3 件追加掲載した。

④ その他「学会企画案内」「tools+α：便利機能」「はじめての学会発表と論文作成」のページを掲載している。

37. 広報委員会 委員長 綿田裕孝
今年度は委員会を開催しなかった。

38. 利益相反委員会 委員長 綿田裕孝
今年度は委員会を開催しなかった。

39. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会
委員長 島田 朗

令和 6 年度の診療報酬改定に向けて，現在提案書を作成中である。当学会からの提案としては，「周術期血糖管理料」ならびに「糖尿病先進機器データ管理料」の 2 件であるが，この他に他学会との共同提案として追加で 1 件，計 3 件提案予定である。

第 64 回年次学術集会（2021 年度）にて提起された，急性期病院における重症度看護必要度の問題については，同年次学術集會会長の戸邊理事とともに認定施設に対してアンケート調査を行い，とりまとめた段階である。

40. CGM 適正使用推進委員会 委員長 島田 朗
1) 今年度前期には委員会を開催しなかった。

2) 新機種テルモ G6 の発売，およびメドトロ 700 シリーズ承認に伴い，リアルタイム CGM e-ラーニングの講習内容を 2022 年 3 月 31 日に改訂した。上記新機種についての内容を含むため，過去に受講された場合でも積極的な再受講を推奨するようホームページの「学会からのお知らせ」に掲載をしている。

- 3) 間歇スキャン式持続血糖測定器（isCGM）：

FreeStyle リブレに関する見解の改訂版を 2022 年 4 月 1 日にホームページに掲載した。

- 4) リアルタイム CGM 適正使用指針を 2022 年 12 月 1 日改訂した。

- 5) 2022 年 4 月～2023 年 3 月のリアルタイム CGM e-ラーニング受講者は，新規が 2,191 名，再受講者は 777 名であった。

〈対外的活動に関する報告〉

41. 国際交流委員会 委員長 稲垣暢也

- 1) 国際糖尿病連合（IDF）

① IDF に関する事項

・ IDF Congress 2022（Lisbon）が 2022 年 12 月 5 日～8 日に開催された。

・ 2022 年 8 月 27 日，28 日に実施された理事会にて，下記の 3 点が承認された。

➢ 糖尿病合併症に関する新しい Virtual Congress を開催することが承認され，日程は 2023 年 12 月 4 日～7 日とすることとした。

➢ 2024 IDF Congress はリオデジャネイロで開催されることが承認された。

➢ 2026 IDF Congress は 2021 年に延期された IDF Congress の開催地であるバンコクでの開催が承認された。

② IDF-WPR に関する事項

・ IDF Congress 2022 にて開催された IDF 理事会および IDF-WPR 地域会議において，門脇孝理事が IDF-WPR の Chair に，矢部大介監事が Executive Board に就任した。

・ 2020 年より延期されていた The 13th IDF-WPR Congress（Shanghai）は 2023 年にオーストラリアで開催予定だったが，オーストラリアより 2025 年に延期したい旨の申し入れがあった。10 月 23 日に開催された IDF-WPR Executive Board Meeting（門脇孝理事，矢部大介監事が出席）において，2023 年の代理の開催候補として，門脇孝理事から第 11 回日本糖尿病協会年次学術集会（2023 年 7 月 21 日～23 日）ならびに 15th AASD Scientific Meeting（2023 年 7 月 22 日～23 日）と合同開催を申し入れ，理事の賛同を得た。IDF-WPR 全加盟団体の書面決議にて承認され，The 13th IDF-WPR は門脇孝理事を会長として 2023 年 7 月 21 日～23 日，京都国際会館において開催予定である。

- 2) アジア糖尿病学会（AASD）

The 14th AASD Scientific Meeting（稲垣暢也会長，第 37 回日本糖尿病合併症学会/第 28 回日本

糖尿病眼学会総会と同時開催)は、2022年10月21日にオンライン形式で開催された。15th AASD Scientific Meetingは2023年7月21日～23日、京都国際会館にて清野裕名誉会員を会長として、第11回日本糖尿病協会年次学術集会・The 13th IDF-WPR Congress (京都国際会館、2023年7月22日～23日)と合同開催の予定である。

3) 欧州糖尿病学会 (EASD)

① East-West Forum

第10回 East-West ForumがThe 58th Annual Meeting of EASD (ストックホルム、2022年9月)において“Eradicating diabetes stigma”をテーマに開催された。双方より計3名の演者の講演と、座長を含めたディスカッションを行った。第11回 East-West Forumは、第66回日本糖尿病学会年次学術集会にて、“Use of Diabetes Self-Management Technologies”をテーマに開催する。

② 欧州糖尿病財団 (EFSD) との交換留学プログラム

- ・2020年度～2022年度で募集延期をしていた本プログラムの再開に向け、EFSDとの覚書の更新締結を行った。また、2023年4月より学会HPに募集要項を公開した。
- ・第65回日本糖尿病学会年次学術集会において、留学から帰国したプログラム参加者2名による成果報告会が開催された。第66回日本糖尿病学会年次学術集会においても留学帰国者2名による報告会を開催する。

4) JDI 関連

査読、投稿に関する当学会の支援のもと、2021年インパクトファクター3.681 (Journal Citation Reports (Clarivate, 2022) 84/148 (Endocrinology & Metabolism)) を取得した。

42. 日本医学会に関する報告

日本医学会 評議員 植木浩二郎

- 1) 2022年6月29日に2022年度定時社員総会が開催され、2023年2月22日に第90回日本医学会定例評議員会および2022年度臨時社員総会が開催された。
- 2) 日本国際保健医療学会が2022年度日本医学会新規加盟学会として決定された。
- 3) 2023年4月に東京で開催される第31回日本医学会総会2023 (春日雅人会頭) の早期事前参加登録の団体登録割引の仲介を本学会会員向けに実施した。

43. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

①「対糖尿病戦略5ヵ年計画」策定委員会

委員長 山内敏正

本委員会は、第5次「対糖尿病戦略5ヵ年計画」の作成に向けて、2022年12月11日の定例理事会での承認により発足した。その後、2023年3月26日に委員会が開催され、2025年の公表に向けて、第5次計画作成の方向性について話し合われた。

②「健康日本21」の糖尿病対策検討委員会

委員長 荒木栄一

糖尿病治療のエッセンス (2022年版) の作成にむけて、本学会に改訂ワーキンググループが設置され、2022年版が作成された。2022年版は、11月1日に日本医師会のホームページに掲載された。

③ 糖尿病データベースの構築委員会

委員長 荒木栄一

日本糖尿病学会では現在、JDCP study と J-DREAMS という2つの大規模データベースを有している。

-1 JDCP study 研究調整委員会

委員長 西村理明

JDCP study は、対象とした糖尿病患者6,338例を8年間追跡した観察研究である。2017年10月末で追跡を終了し、観察期間3/5/8年の追跡率は、81.9/73.0/57.3%である。2021年度末に、全データの固定作業が完了した。膨大な時間をかけ、イベント固定にご尽力くださった各WGの先生方に心から御礼申し上げたい。

ベースラインデータに関しては、網膜症、腎症、歯周病、神経障害、食事療法と運動療法に関して論文化が終了した。

追跡データに関しては、大血管WGが追跡期間中の心血管疾患の粗発症率は9.5/32.3 (CVDの既往無し/有り)/1,000人年と報告した。また、死因についての論文も受理され、粗死亡率は5.2/1,000人年、死因の46.2%を悪性疾患が、11.7%を心血管疾患が占めることを報告した。

現在、癌の発生に関する論文については査読中である。追跡期間中のイベントの解析を進め、複数のWGが協力した解析にも着手し、ガイドライン作成の際のエビデンスとなり得る成果を論文化してゆく予定である。

本研究にご協力頂いた医療機関の諸先生、医療スタッフの方々に心から御礼を申し上げます。

-2 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS) 合同委員会

委員長 荒木栄一

- 1) 委員会開催：1回（2022年12月19日）
- 2) J-DREAMS 参加施設による全体会議を2023年2月4日に開催した
- 3) 2015年度に始動した診療録直結型全国糖尿病データベース事業「J-DREAMS (Japan Diabetes compREhensive database project based on an Advanced electronic Medical record System)」について、2023年3月末時点で70施設が参加し、約94,000症例登録され、目標であった50,000症例を達成した
- ①今後も参加施設数と症例登録数の増加を目指し、今後2年以内に登録症例100,000件を目標とする
- 1 現在1施設とは参加合意し機器等設置準備中、さらに2施設から参加希望があり調整中である
- ②データ入力に使用している各ベンダー（IBM, 富士通, NEC, ソフトウェアサービス, FINDEX, キヤノン）のテンプレートについては、使い勝手や継続性の向上を目指し改善に取り組んでいる
- ③2021年度から企業との共同研究を5件（ノボルディスク ファーマ, 日本ベーリンガーインゲルハイム, アステラス製薬, アボットジャパン, 日立製作所）開始しており、現在、更に複数企業との共同研究の予備検討と協議を進めている

44. 分科会に関する報告

- ①日本糖尿病合併症学会 理事長 中村二郎
日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は、第37回日本糖尿病合併症学会年次学術集会を、稲垣暢也会長（京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学）の下、第28回日本糖尿病眼学会総会と合同で2022年10月21～22日の2日間、国立京都国際会館にてハイブリッド形式で開催した。シンポジウムが合併症学会として8題、眼学会と合同で3題、そして一般演題は例年通り全てワークショップ形式で行われた。市民公開講座は開催されなかった。
本学会が設けた各学会賞は以下の受賞者に贈呈され、受賞講演が行われた。

Outstanding Foreign Investigator Award :
Timothy James Kieffer
(Department of Cellular & Physiological Sciences, Department of Surgery, School of Biomedical Engineering)

Distinguished Investigator Award : 門脇 孝
(虎ノ門病院)

Expert Investigator Award : 四方賢一 (岡山大学病院)

Young Investigator Award : 的場圭一郎 (東京慈恵会医科大学)

同上 : 富田洋平 (ハーバードメディカルスクール, ボストン小児病院)

第38回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は、四方賢一会長（岡山大学病院）の下、2023年10月20～21日の2日間、岡山コンベンションセンターにて開催されることが決定している。

学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め3回発行された。

- ②日本糖尿病・肥満動物学会 理事長 寺内康夫
令和5年度より日本糖尿病学会の分科会となることが承認された日本糖尿病・肥満動物学会は、第36回年次学術集会を、綿田裕孝会長（順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学）の下、令和5年2月17日～18日の2日間、一橋大学一橋講堂にてハイブリッド形式で開催した。特別講演1題、プレナリーレクチャー2テーマ4題、シンポジウム1テーマ5題、受賞講演各1題、一般演題20題（うち若手研究奨励賞10題）、ポスターセッションを実施した。

本学会が設けた各学会賞は以下の受賞者に贈呈され、受賞講演が行われた。

学会賞「米田賞」:

遺伝子操作マウスを用いた肥満関連疾患の分子病態に関する研究

小川佳宏 (九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野)

研究賞:

肥満インスリン抵抗性における脂肪組織 M1/M2 マクロファージおよび腸内細菌叢の意義

藤坂志帆 (富山大学学術研究部医学系第一内科)

若手研究奨励賞:

鶴澤博嗣 (順天堂大学)

大藪 葵 (京都府立大学)

清家雅子 (神戸大学)

竹内 彬 (東京医科歯科大学)

三浦雅臣 (東京大学)

第37回学会年次学術集会は、水上浩哉会長（弘前大学）の下、令和6年3月15～16日の2日間、弘前大学創立50周年記念会館にて開催されることが決定している。学会の機関誌「ニュースレター」は3回発行された。

45. 日本糖尿病療養指導士認定機構に関する報告

理事長 宇都宮一典

2022年度は、CDEJ受験希望者数の減少化傾向に歯止めをかける取り組みを積極的にすすめた年であった。

また、収入減を補完する意味から、昨年度に続き、認定更新者用講習会をe-learning開催とし、認定試験をCBTで実施。また、会議の大半をWebで開催し、事務局作業も簡素化・デジタル化を図り、コスト削減に努めた。その結果、3期連続、僅かながら黒字を計上している。

次年度へ向けての「CDEJブランド」強化策としては、地域の潜在的な需要に応えるべく、多様な新たな絆を構築することが重要と考え、地区担当理事との連携を強化し、学会地方会等に積極的に参画すべく、具体策を検討している。

1) 第23回認定試験（客観試験）

CBT（Computer Based Testing）にて3月17日～4月10日に実施し、受験者数は1,019名。

試験会場として利用されたのは、CBT運営業者が提携する全国のテストセンター約300箇所。

CBTは途中15分間の休憩を挟み180分間で行われ、出題数は120問。受験者は全員同じ問題を解くわけではないため、従来の手法で合格水準を算出することが難しく、今回の試験についても昨年同様、理事長、認定・試験委員会の代表からなる「合否判定会議」を開催し（4月23日）、合否を判定する。最後に試験結果と「自験例の記録」との総合判定を行い、合格者を決定する。

現在、年度をまたいでの試験実施を避け、年度内に試験が終了し、年度内に結果を通知するようにすべく、検討を重ねている。

2) 受験者用・認定更新者用講習会、Jスキルコース

①受験者用・認定更新者用ともeラーニングのみで開催。受講者数は受験者用1,207名（修了者1,153名）で、昨年度を127名下回った結果となった。認定更新者用・修了者は2,293名で、昨年度を371名下回った。

②任意で2群単位が取得できるeラーニング「Jスキルコース」は、スタート4年目となり、認知度は上がり、更なるラインナップの充実を求める声が強くなる。他方、初期のコンテンツについては順次最新情報に修正すべく、見直しを図っている。また、これらの作業量が増えてきた為、従来、他委員会と兼務で組織されていた「Jスキルプロジェクト」を見直し、6月、新たに理事をリーダーとした「Jスキル委員会」を設け、更なる拡充を図っていくこととした。

3) 認定更新審査、研修会審査

①2022年度の更新対象者は4,140名であり、昨年度を301名下回った。現在、第2期申請の審査中。また、2年後の機構設立25周年には、5回目の更新者が誕生することとなり、その折は、長年の活動と研鑽を称えたい。

②「認定更新のための研修会（2-14）」はWEB型研修会を含め、申請件数は昨年度より129件増え、年度末の件数は約809件である。

4) 広報活動

広報誌CDEJ News LetterをはじめWebを中心に広報活動を展開。春には、CDEJのブランディングを図るべく、「PR動画」を制作した。現在、Webサイトで常時視聴可能。また、各地学会等でも様々な形で公開をしている。次年度にはWebサイトデザイン変更も検討。

5) 出版物

「糖尿病療養指導士ガイドブック2022」は5月に発刊し、現在まで12,000部発行している。

5月以降は「2023年度版」発刊に向け編集に取り組んだ。編集に当たっては、用語を「日本糖尿病学会」出版物に沿うことを確認。また、カリキュラム委員会、各委員会からの提言を受け、作業に取り組んだ。最終的には理事長、常務理事、職種担当理事による「査読会議」を開催し、精度の高いガイドブック作成を目指した。

6) CDEJ在籍者数

18,591名（看護師/8,252名、管理栄養士・栄養士/4,892名、薬剤師/2,873名、臨床検査技師/1,301名、理学療法士/1,273名）

7) 2022年度収支と今後の展望

ほぼ予算通り、最終的には1,000万円強の黒字となる見込み。受験希望者の減少により、減収になったが、様々な経費削減努力と、組織全体で電子化を進めたおかげで、赤字には至っていない。数字だけ見れば、業績は安定していると思えるが、現実には受験希望者の減少という深刻な問題がある。ウイズコロナがニューノーマルの時代、受験者減をコロナの影響として片づけることは出来ず、根底に「受験資格が実態に合っていない」等の問題を真摯に捉え、時代の変化に即応した受験環境の見直し等に取り組んでいきたい。

46. 日本糖尿病協会委員会 担当理事 稲垣暢也 今年度は委員会を開催しなかった。

①日本糖尿病学会・日本糖尿病協会合同アドボカシー委員会
委員長 山田祐一郎

1) 委員会開催：1回（2023年1月29日）

- 2) 糖尿病協会から「糖尿病」の病名変更について発議があった
 - ①病名変更は法改正を必要とすること, 社会的影響が大きいことから, 「糖尿病」に代わる別呼称を検討する方針となり, 少人数のワーキンググループ (WG) を設置した
- 3) 呼称に関する WG 開催: 3 回 (2023 年 2 月 28 日, 3 月 15 日, 3 月 28 日)
 - ① WG での検討結果について, 次回合同アドボカシー委員会へ提案することとなった
- 4) 次回: 2023 年 4 月 9 日にアドボカシー合同委員会の開催を予定している.
- 5) 「日本くすりと糖尿病学会のアドボカシー活動」から依頼を受け, 先方の制作ポスター内容に関する意見を提出した.
- 6) 生命保険に関する不利益の解消に向けて生命保険業界団体に質問書を送っている.

〈合同委員会に関する報告〉

47. 糖尿病性腎症合同委員会 委員長 綿田裕孝
腎症合同委員会は令和 4 年 12 月 18 日に開催された. その際, 病期分類の改訂ワーキンググループから, 「病期分類の改訂に関して, エビデンスが不十分な現時点では各病期の eGFR 値は変更せず, 各病期の名称などのマイナーな改訂に留める」案が答申され, 承認された. その後 3 学会の理事会でも承認された. オブザーバー参加されている病態栄養学会を加えた 4 学会の学会誌に, 委員会報告として掲載する予定であることが報告された.

本学会の委員から, 12 月の時点で改訂作業中の日本腎臓学会ガイドラインにおいて, 前版同様, 「糖尿病性腎臓病」という名称が使われていることから, 「糖尿病性腎症」との違いに関する議論が提起された. 各学会の委員から意見が述べられ, 今後腎臓学会と糖尿病学会の両理事会において, 継続して議論することで委員の合意が得られた.

48. 臓器移植中央調整委員会/移植関係学会合同委員会/日本臓器移植関連学会協議会

■臓器移植中央調整委員会 委員長 栗田卓也

- 1) 委員会開催: 2 回 (2022 年 10 月 17 日, 2023 年 3 月 3 日)
- 2) 2023 年 3 月 31 日現在の臓器移植希望者申請書類受付は累計 1,054 件であった. ネットワーク登録済みの待機患者数は 174 件, 死体臓器移植済み 476 件, 生体臓器移植 4 件, 待機中死亡 76 件, 取消 122 件であった.
- 3) 筑波大学病院, 自治医科大学病院の 2 施設より臓

臓移植実施施設の申請を受け, 2022 年 5 月に移植関係学会合同委員会で新規施設として承認された.

- 4) 臓器移植実施施設の更新について持ち回り審議を行い, 条件付きで 18 施設全ての更新が認定され, 認定期間は 2027 年 3 月までの 5 年間とし, 認定証を発行した.
- 5) 実施施設の認定基準の見直しを行い, 当該実施認定施設における臓器移植・腎臓移植の経験のある外科医の在籍有無や, レシピエントの新規登録実績を問う文言が追加され, 2022 年 4 月付で認定基準が改訂された.

■移植関係学会合同委員会

委員 稲垣暢也, 栗田卓也

持ち回り審議にて, 下記の審議が承認された.

- ①第 44 回移植関係学会合同委員会 (2022 年 3 月 25 日付)

新規認定:

臓器移植実施施設, 筑波大学附属病院, 自治医科大学附属病院 (臓器移植実施施設)
和泉市立総合医療センター (腎臓移植実施施設),
長崎大学病院 (小腸移植実施施設)

- ②第 45 回移植関係学会合同委員会 (2022 年 7 月 14 日付)

新規認定:

医療法人鉄蕉会亀田総合病院 (腎臓移植実施施設)

認定取り消し施設:

防衛医科大学校病院, 国立病院機構金沢医療センター, 近江八幡市立総合医療センター, 京都府立医科大学附属北部医療センター, 京都府立医科大学附属病院, 国立病院機構米子医療センター (腎臓移植実施施設)

- ③第 46 回移植関係学会合同委員会 (2022 年 9 月 7 日付)

新規認定:

自治医科大学附属病院 対象: 成人 (脳死肝移植実施施設)

医療法人社団協友会柏厚生総合病院 (腎臓移植実施施設)

東京大学医学部附属病院 (心肺同時移植実施施設)

- ④第 47 回移植関係学会合同委員会 (2022 年 12 月 7 日付)

新規認定:

京都府立医科大学附属病院 (腎臓移植実施施設)

- ⑤第 48 回移植関係学会合同委員会 (2022 年 2 月 16 日付)

新規認定：

名古屋大学医学部附属病院（肺移植実施施設）

九州大学病院（心臓移植自施設内適応判定施設）

認定取り消し施設：

国立循環器病研究センター（心肺同時移植実施施設）

■日本臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会 世話人 栗田卓也

委員会開催：1回（2022年7月15日）

2022年7月15日にWeb形式で開催された。小児の臓器提供をめぐる動きや、パンデミック下における臓器提供の現況と今後の課題、臓器・組織提供の斡旋連携、家族・医療施設の負担軽減など、今後の臓器提供に関連する現状報告と今後の問題提起の議論をおこなった。

49. 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長 島田 朗

1) 委員会開催：1回（2022年5月12日）

2) 以下、日本医療情報学会との共同企画を開催した

①第65回年次学術集会：シンポジウム22「糖尿病領域の大規模臨床医療データサイエンスの展望」（2022年5月13日 | 神戸ポートピアホテル他）

②第42回 医療情報学連合大会：生活習慣病に関するデジタルデバイス/アプリの最前線（2022年11月18日 | 札幌コンベンションセンター）

3) 以下、日本医療情報学会との共同企画を開催予定である

①第66回年次学術集会：シンポジウム18「糖尿病診療のデジタルヘルスの展開」（2023年5月12日 | 城山ホテル鹿児島他）

②第43回 医療情報学連合大会：詳細未定（2023年11月22日～25日 | 神戸ファッションマート）

4) 本合同委員会より派生した「6臨床学会拡大会議（日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学会/日本腎臓学会/日本臨床検査医学会 + 日本医療情報学会）」について、2021年度から日本肥満学会 + 日本糖尿病協会を加えて「生活習慣病関連団体拡大会議」として活動を行うことになった

①今年度は拡大会議を開催しなかった

②項目セットの商用利用および本拡大会議の継続運営の方法について昨年度より引き続き検討を行っている

5) 製薬企業等による患者向けアプリの開発等が活発化していること、またマイナナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）の開始と併せ

てマイナポータル医療者閲覧の運用開始もありPHRに関連する動きが活発化していることを受け、PHR・EHRの連携/各アプリ・サービス間でのデータポータビリティの担保のためには本合同委員会および6臨床学会で作成した「コア項目セット」「自己管理項目セット」「Personal Health Record（PHR）推奨設定」の周知徹底が急務と考え、中島副委員長、脇委員、大杉委員、松久委員によるWGを設置した。

①8月5日にPHR普及推進協議会が行われた

②8月10日にPHR事業者団体との意見交換会が行われた。本合同委員会や拡大会議に案内し、多くのメンバーが参加した

③8月30日、9月27日にWGによる会議が開催された

④関連団体・行政機関・企業によるコンソーシアムの設立に向けて準備を進めている

6) 令和4年度AMED予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業ヘルスケア社会実装基盤整備事業に「2型糖尿病の発症予防を目指すヘルスケアサービスの適正評価確立のための研究（綿田裕孝代表）」が採択され、合同委員会メンバーの中島副委員長、脇委員らが日本医療情報学会からの分担研究者として参画した

7) 令和5年度AMED「医療・介護・健康データ利活用基盤高度化事業（医療高度化に資するPHRデータ流通基盤構築事業）」への公募に際し、PHR普及推進協議会による申請書の体制図に、事業の連携相手として、9団体拡大会議の名称（9団体名入り：（※日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、日本腎臓学会、日本糖尿病学会、日本臨床検査医学会、日本肥満学会、日本糖尿病協会、日本糖尿病眼学会、日本医療情報学会））を記載することについて、委員会として承認した。

50. 糖尿病と癌に関する合同委員会

代表 綿田裕孝

1) 今年度は合同委員会を開催しなかった。

2) がん主治医と糖尿病専門医を対象に実施するWebアンケート調査「がん治療中の糖尿病管理に関する調査」の解析結果について、委員会報告として論文化を実施し、英訳についても完了させた。

3) 上記論文については、本学会の和文誌「糖尿病」、英文誌「Diabetology International」、日本癌学会誌「Cancer Science」へ同時掲載を実施し、日本癌治療学会では、同時掲載された論文をreferenceしたshort statementを先方の学会誌

「International Journal of Clinical Oncology (IJCO)」, 「International Cancer Conference Journal (ICCJ)」の何れかに投稿することを予定しており、現在、出版社間での同時掲載における Agreement 締結の手続きを進めている。

51. 日本糖尿病病理療学会と日本糖尿病学会との
実務担当者会議 代表 植木浩二郎
今年度は委員会を開催しなかった。

52. 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会
代表 荒木栄一

1) 合同研究会の開催

①第8回肝臓と糖尿病・代謝研究会(会長:吉治仁志(日本肝臓学会))が、2022年6月25日、奈良にて開催された。事務局担当は日本肝臓学会であった。
プログラムとして、シンポジウム(5演題)、特別講演(2演題)、YIAセッション(5演題)、ワークショップ2セッション(計12演題)、一般口演3セッション(17演題)、ポスター9セッション(45演題)、ランチョンセミナー(3演題)、コーヒープレイクセミナー(3演題)が行われた。一般演題も非常に多くポスター会場でも積極的な討論が行われた。

②次回、第9回は2023年5月13日(第66回日本糖尿病学会年次学術集会3日目)に、城山ホテル鹿児島にて、「2型糖尿病維新〜肝臓と糖代謝をつなぐ研究が拓く治療」をテーマとして開催を予定している。会長は西尾善彦先生(鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 糖尿病・内分泌内科学)が務める。

2) 委員会の開催

9月15日に合同委員会が開催され、上記1) ①研究会の開催報告、②次回研究会の開催案を確認した。

- 3) 第9回肝臓と糖尿病・代謝研究会での若手研究奨励賞(YIA)選考にあたり両学会より審査員を2名ずつ選出した。

53. 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会
代表 荒木栄一
今年度は委員会を開催しなかった。

54. 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会
代表 稲垣暢也

1) 委員会開催(2回):2022年7月8日、10月26

日

- 2) 「高齢者糖尿病診療ガイドライン2023」の改訂作業について

①章ごとの一次原稿を基に、査読における疑問点・検討事項の確認を行い、二次原稿を作成した

②二次原稿の全体評価と並行して『糖尿病診療ガイドライン2024』のSRサポートチームにSR・アブストラクトテーブルの内容、CQとしての完成度について評価を依頼した

③二次原稿の全体評価と『糖尿病診療ガイドライン2024』のSRサポートチームの評価を受けて三次原稿の作成を行った

④委員および執筆協力者によるCQ・Qの投票が行われた

⑤委員および執筆協力者による校正刷りの校閲を行い、並行して学術評議員他によるパブリックコメントの募集と評価委員およびリエゾン委員に校正刷りの評価依頼を行った

⑥2023年5月発行に向けて両学会の理事に校正刷りを送付し最終確認を行っている

- 3) 「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」(2017年6月1日発行)の2023年3月末時点での売上部数は15,664部(内電子書籍分:56部)である

55. 日本人の肥満2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する3学会合同委員会 学会代表 稲垣暢也、益崎裕章、綿田裕孝

1) 今年度は委員会を開催しなかった。

- 2) 「減量・代謝改善手術と肥満2型糖尿病診療に関するアンケート調査」の実施について

①本合同委員会:佐々木 章 委員長(日本肥満症治療学会)よりアンケート調査への協力依頼を受け、承認した

②本学会学術評議員を対象にアンケート調査の回答依頼をメール一斉配信にて行った

(回答期間:9月5日~17日、期間延長:9月27日)

〈その他の報告〉

56. 演題登録時の倫理審査検討委員会

担当理事 綿田裕孝

1) 今年度は委員会を開催しなかった。

- 2) 第65回年次学術集会終了をもって、第65回会長の委員3名が退任した。第68回会長と委員2名の就任により、下記メンバーにて2022年度の委員を発足した。

2022 年度委員

綿田裕孝, 池上博司, 山内敏正, 鈴木 亮, 西尾善彦, 橋口 裕, 倉野美穂子, 植木浩二郎, 大杉 満, 坊内良太郎, 金藤秀明, 下田将司, 木村友彦

- 3) 演題登録時の倫理承認に関する項目について, 第66回年次学術集会から「現在倫理承認申請中」の選択肢を削除した(倫理承認済みの演題以外は応募を受け付けない)
- 4) 地方会では2021年度から年次学術集会と同様, 演題登録時の倫理審査確認の必須化を実施しており, 2023年度以降は地方会においても, 倫理承認済みの演題以外は受け付けない対応を予定している.
- 5) 昨年同様, 今回もホームページ上に質問フォームを設け申請者からの問い合わせに対応した. 第62回年次学術集会から倫理審査を実施してきたが, 4年が経過し周知されたこともあり問い合わせは減少している.

3. 「糖尿病学の進歩」開催について

第59回「糖尿病学の進歩」

会 期 2025年1月24日(金)~25日(土)(予定)

会 場 那覇文化芸術劇場なはーと, ホテルコレクティブ(予定)

世話人 益崎 裕章(琉球大学)

※第60回「糖尿病学の進歩」の開催支部は東北支部, 第61回「糖尿病学の進歩」の開催支部は中部支部, 第62回「糖尿病学の進歩」の開催支部は北海道支部, 第63回「糖尿病学の進歩」の開催支部は中国・四国支部に決定した.

4. 2022 年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上, 2022年度収支決算書が承認可決された.(本号 p56~p82).

5. 2024 年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上, 2024年度事業計画が承認可決された.(本号 p83~p84).

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した宇都宮 一典会員が定時社員総会において承認された.

7. 次々会長(第69回学術集会)の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第69回会長に下村 伊一郎会員が選出され, 定時社員総会において承認された.

8. 第67回年次学術集会に関する件

2024年5月17・18・19日の3日間, 東京国際フォーラムほかにおいて開催の予定である.

9. 各種委員会委員の交代等に関する件

任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することとなった.

1. 「糖尿病」編集委員会

■: 2023年度選出(任期: 2023年度~2026年度)

無: 2021年度選出(任期: 2021年度~2024年度)

※2021年5月理事会で承認済

委員長	理事 神谷 英紀	愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科
北海道	三木 隆幸 ■ 中村 昭伸	王子総合病院循環器内科・糖尿病内科 北海道大学病院内科Ⅱ
東北	島袋 充生 ■ 澤田正二郎	福島県立医科大学糖尿病・内分泌・代謝内科学講座 東北医科薬科大学糖尿病代謝内科
関東甲信越	大杉 満 永井 義夫 金澤 昭雄 ■ 横田 太持 ■ 山田 悟 ■ 長坂昌一郎	国立国際医療研究センター センター病院・糖尿病代謝内分泌科 研究所・糖尿病情報センター 独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院糖尿病・内分泌内科 順天堂大学医学部内科・代謝内分泌学講座 慈恵医大葛飾医療センター 糖尿病・代謝・内分泌内科 北里研究所病院糖尿病センター 昭和大学藤が丘病院糖尿病・代謝・内分泌内科
中部	堀川 幸男 ■ 野見山 崇	岐阜大学大学院医学系研究科内分泌代謝病態学 順天堂大学医学部附属静岡病院

近畿	浅原俊一郎 岩橋 博見 ■ 小倉 雅仁 ■ 森岡 与明	神戸大学医学部 附属病院糖尿病・内分泌内科学 市立豊中病院内科内分泌代謝内科 国立病院機構京都医療センター 糖尿病内科 大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学
中国・四国	谷口 晋一 ■ 奥屋 茂	鳥取大学医学部 地域医療学講座 山口大学 教育・学生支援機構 保健管理センター
九州	川浪 大治 ■ 益崎 裕章	福岡大学病院内分泌・糖尿病内科 琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）

2. 「食品交換表」編集委員会

- ：2023 年度選出（任期：2023 年度-2026 年度）
無：2021 年度選出（任期：2021 年度-2024 年度）

※2021 年 5 月理事会で承認済

北海道	■ 横山 宏樹	横山内科クリニック
東北	山口 宏	山形県立中央病院
関東甲信越	■ 鈴木 亮 窪田 直人	東京医科大学病院 東京大学
中部	■ 井上 達秀	静岡県立総合病院 糖尿病・内分泌代謝センター
近畿	■ 藤田 征弘 橋本 善隆	滋賀医科大学 京都府立医科大学
中国・四国	■ 肥田 和之	岡山医療センター
九州	下田 誠也	熊本県立大学
担当理事 (2022 年 5 月改選)	綿田 裕孝 谷澤 幸生 荒木 栄一 今川 彰久	順天堂大学 山口大学 菊池郡市医師会立病院 大阪医科薬科大学

3. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会

- ：2023 年度選出（任期：2023 年度-2026 年度）
無：2021 年度選出（任期：2021 年度-2024 年度）

※2021 年 5 月理事会で承認済

北海道	関口 雅友	愛心メモリアル病院
-----	-------	-----------

東北	■ 五十嵐雅彦 村上 宏	山形市立病院済生館地域糖尿病センター 弘前大学
関東甲信越	河合 俊英 ■ 東 宏一郎	東京都済生会中央病院 練馬総合病院
中部	■ 石塚 達夫	岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター
近畿	■ 片上 直人 山根 俊介	大阪大学 京都大学医学部附属病院
中国・四国	■ 中塔 辰明	岡山済生会総合病院
九州	中村 宇大	製鉄記念八幡病院
担当理事 (2022 年 5 月改選)	吉岡 成人 谷澤 幸生 稲垣 暢也	NTT 東日本札幌病院 山口大学 田附興風会 医学研究所北野病院

10. 2023 年度選挙管理委員会委員承認について

細則第 44 条により、下記の様に承認された。

北海道支部	丹羽 祐勝	にわ糖尿病内科クリニック
東北支部	薄井 正寛	大崎市民病院
関東甲信越支部	横手幸太郎	千葉大学
中部支部	矢野 裕	三重大学
近畿支部	小山 英則	兵庫医科大学
中国・四国支部	米田 真康	広島大学病院
九州支部	本島 寛之	熊本総合病院
会長経験者	小川 渉	神戸大学

11. 「糖尿病学の進歩」運営委員会委員について

細則第 48 条④および「糖尿病学の進歩」運営委員会規定により、下記の様に決定された。

第 57 回「糖尿病学の進歩」世話人	馬場園哲也
第 58 回「糖尿病学の進歩」世話人	池上 博司
第 59 回「糖尿病学の進歩」世話人	益崎 裕章
第 66 回年次学術集会会長	西尾 善彦
第 67 回年次学術集会会長	植木浩二郎
学術担当常務理事	荒木 栄一
庶務担当常務理事	綿田 裕孝
会計担当常務理事	山内 敏正

12. 学会後援について

申し込みのあった 8 件を後援することとした。

- 1) 一般社団法人 PHR 普及推進協議会 PHR 普及推進フォーラム 2023（2023 年 2 月 9 日）
日本マイクロソフト品川本社セミナールーム
- 2) 第 40 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー（2023 年 8 月 26 日～27 日）

志摩観光ホテル ザ クラシック

- 3) 第28回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会 (2023年7月17日)
ナレッジキャピタルカンファレンスルーム タワー B
- 4) 第58回日本理学療法学術研修大会 (2023年5月27日～28日)
オンライン開催
- 5) 栄養の日・栄養週間 2023 (2023年8月1日～7日)
栄養ワンダー 2023 (全国) ならびに Web サイト
- 6) 第22回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会 (2023年11月4日～5日)
昭和大学上條記念館
- 7) 第10回日本糖尿病協会年次学術集会 (2023年7月22日～23日)
国立京都国際会館
- 8) 第34回分子糖尿病学シンポジウム (2023年12月2日)
東北大学 学内講堂

以上 文責 庶務担当常務理事 綿田裕孝